



アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル 愛南町出身の kiku さんがつづるふるさとエッセイ

## —あいなん音故地新—

私を生きる。

2021年も半分が過ぎた。どこにも行けず思い出も作れず、去年から進歩のない生活をしながらも東京ではオリンピックの準備が進む。

私はといえば、新しいバンドを作ったり東京の鍼灸院を移転する準備をしたり、相変わらずやりたいことがいっぱい。コロナに負けとれん。

いつやったか友達に"kikuちゃんは何がしたいの？何になりたいの？"と鼻で笑いながら言われたことがあったけど、私は"やりたいことをやりきる私"と即答した。(その友達とはそれ以来会ってない。)一つのことを極めるのもいい、やりたいことをいくつかやってもいい、思うようにやればいい。

普通や常識とは違うことをやろうとしたら当然反対がある。周りに理解されなくてもいいから自分がやりたいと思うならやるべきや。その代わり全ては自分の責任。それは覚悟のうえで。そこに辿り着くまでに何度もつまずいたとしても、挑戦した者にしか知ることのできんことがその道には隠されるから。

人生は楽しむためにある。誰が何と言おうと、誰かにばかにされようとも笑われようとも。私は私を生きる。

(テノヒラkiku)



本日！海日和！！ vol.128



## 「夏色の魚」



夏が近づき、海水浴や海中展望船を楽しみに、町外からも多くの人が集まる季節となった。この時期に鹿島や瀬の浜でダイビングをしていると、栈橋から「見て見て！青い魚がいる!!」という歓声をよく耳にする。

青い魚の正体は、ソラスズメダイの幼魚である。2cmにも満たない大きさだが、鮮やかなスカイブルーは人々の目を引く。愛南の人たちには見慣れた魚かもしれないが、多くの人にとって南の海を感じる熱帯魚である。

成長すると水深 10 m 程の深場へ移動する。産卵はさらに深い場所で行われるようで、深さが 20 m を超えるような所で、大きな群れを見たことがある。



【ソラスズメダイ】

私が初めて愛南の海に潜った時も、最初に目に飛び込んできたのがソラスズメダイであった。

これから夏本番、強烈な日差しの下、空の青さを写し込んだソラスズメダイに出会えるのが楽しみである。

(撮影地：カナガサキ) 愛南サンゴを守る会 ともてる 西尾知照